

山形城三の丸跡発掘調査説明会資料

2008年10月25日(土)

財団法人山形県埋蔵文化財センター

調査要項

遺跡名	山形城三の丸跡(やまがたじょうさんのまるあと)
所在地	山形県山形市旅籠町
遺跡番号	中世城館遺跡番号 201-002
調査委託者	国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所
調査原因	一般国道112号霞城改良事業
現地調査	平成20年6月16日～平成20年10月31日
調査面積	1,700㎡
遺跡種別	集落跡・城館跡
時代	奈良・平安時代・中世・近世
遺構	竪穴住居跡・掘立柱建物跡・柱穴・溝跡・土坑
遺物	縄文土器・須恵器・土師器・陶器・磁器・瓦
調査担当者	調査課長 長橋 至 課長補佐 伊藤邦弘(調査主任) 主任調査研究員 佐竹弘嗣 調査員 高木 茜
調査指導	山形県教育庁文化遺産課
調査協力	山形市教育委員会 山形県教育庁村山教育事務所

1 はじめに

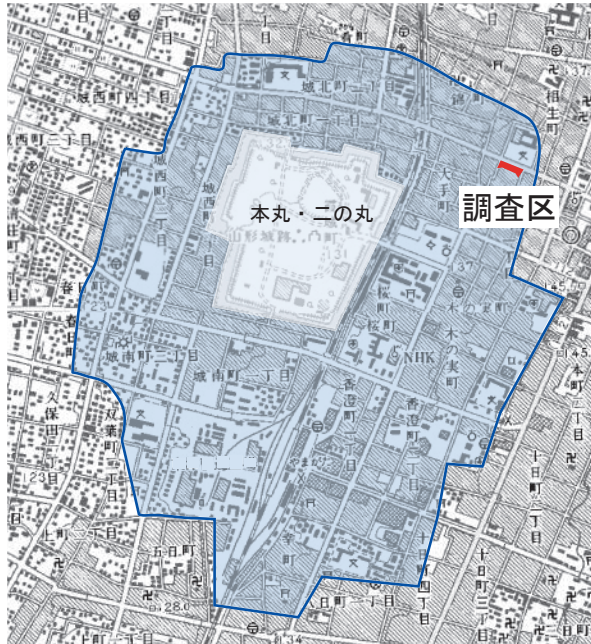
今年度、山形県埋蔵文化財センターによる山形城三の丸跡の発掘調査は、春日町と旅籠町の2か所で行われました。この旅籠町の調査は、一般国道112号霞城改良事業に伴う緊急発掘調査です。

調査区は、東西約1.6km、南北約1.8kmに及ぶ広大な三の丸の北東部に位置します。南東には鍋口、北西には小橋口があります。

調査は、地域の皆様の日常生活に支障が生じないように調査区を9ヶ所に分割して行いました。始めに、遺跡を覆う表土を重機械で掘削した後、手作業により遺構が見えるところまで少しずつ土を削りました。そうして見つかった柱穴や溝跡などを写真や図面に記録しながら掘り進めました。

1区画を約2週間かけて調査し、一つの区画の調査が終わると埋め戻して、次の調査区に移ることを繰り返しました。

この調査で得られた記録類や遺物は、山形県埋蔵文化財センターでの整理作業の後、発掘調査報告書としてまとめられ、平成21年度に刊行される予定です。



遺跡位置図 (1:25,000)



7区調査風景

2 各区の遺構

今回の調査で見つかった遺構には、掘立柱建物跡・竪穴住居跡・柱穴・土坑・溝跡などがあります。現在までに終了した8区画での遺構数は、約400基に及びます。

1区では、柱穴が西側に集中して見つかりました。ここには掘立柱建物があったようです。一辺約1.2mの石組の遺構もありました。

2区でも柱穴が数多く見つかりっていますが、建物の形はわかりませんでした。直径2m前後の土坑や、たくさんの石を投げ込んだ穴も見つかりました。

4区には全体の規模は不明ですが、3棟の掘立柱建物跡がありました。3棟ともほぼ同じ場所にあり、建て替えられたようです。建

物跡周辺の土坑や溝には、多量の焼土や炭を含むものが多く、火災にあったのかもしれない。

5区は遺構の残りが悪かったのですが、大きな土坑と溝が特徴的でした。

6区では奈良・平安時代の竪穴住居跡が2棟見つかりました。同じ時代と考えられる溝からも土師器・須恵器などの土器が出土しました。また、別の溝からは縄文土器も出土しました。

7区でも奈良・平安時代の遺構や遺物が見つかりています。西側の遺構の多くは、近世の柱穴や土坑でした。その中の石積み遺構には、たくさんの瓦が混じっていました。

8区からは柱穴と大きな土坑が見つかりました。長軸約3m、短軸約1.5mの楕円形の土坑には灰や炭・焼土が詰まっていました。

9区では、柱穴や瓦が出土していることから、建物があったと考えられます。また、大きな土坑を数多く検出しました。その中には、8区で見つかった土坑と同じように、焼土と炭が入ったものを多く見受けました。これらの遺構から、この地区が火災にあったことも推定されます。



1区の石組遺構



6区の竪穴住居跡

3 出土遺物

今回の調査で出土した遺物には、縄文土器・土師器・須恵器・陶器・磁器・瓦・石製品・金属製品・木製品・古銭などいろいろな種類があります。

縄文土器は数点しか出土していませんが、形の特徴から約3,000年前の縄文時代晩期の土器のようです。

土師器と須恵器は、古墳時代から使われてきた素焼きの土器です。6区・7区から多く出土しています。作り方や形の特徴から、約1,200～1,300年前の奈良・平安時代に使われた土器です。

陶器や磁器は、約400年前の江戸時代のものが多くを占めます。愛知県瀬戸、佐賀県唐津などの国産陶器や中国産の青磁も出土しています。

石製品には、砥石や石鉢があります。金属製品では、釘や小刀が見つかりしています。



9区の柱穴から出土した陶器

4 まとめ

今回の調査では、山形城三の丸に伴う掘立柱建物跡や土坑など数多くの遺構が見つかりました。今後、各調査区の遺構の種類や分布状況を検証することにより、三の丸の内部構造の一端を知ることができると考えられます。また、奈良・平安時代にさかのぼる遺構と遺物からは、当時の集落跡の存在も明らかになりました。特に平安時代の瓦の出土は、当時の役所や寺院、あるいは瓦生産と関連する興味深い資料と言えます。

